

これがオススメ! 読み聞かせ本

中・高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

表紙を見た瞬間、「わあ、きれいな本。どんな話なんだろう」とだれもが思う本です。舞台は小学校。自分に自信のない女の子が友達言葉によって前向きになっていく過程が文と絵で表現されています。

子どもたちは押しつけがましくなく、自然に本の世界に入り込むことができます。

中学年も後半になってくると、何でもできると思っていた低学年の時と違って、自分に自信をもてなくなる子がいます。「私なんて……」そう思っている子は友達関係もうまくいかなくなっていますか。この本に出てくる「あいちゃん」もふと自分について考え、友達の「ともちゃん」に自分の「ええところ」を聞きます。友達の答えに一喜一憂する主人公の姿は、教室にいる子どもたちと同じです。



ええところ

くすのき しげのり / 作
ふるしょう ようこ / 絵
(学研)

この本を「友達」というテーマのミニブックトークで紹介し、子どもたちにどうやって友達を作るのか聞きました。「遊んでいて」「話をして」「自然に」等々の反応。

3年生では、挿絵の女の子に目がくぎ付けでお話を聞いていました。

4年生では、すぐにええところを言ってくれない友達に「冷たいなあ」という表情。伝えた場面では、よかったという空気が教室を包みました。

5年生では、特に女の子が自分と重ね合わせて聞いていました。友達について悩み始める年ごろですね。

「ええところ」は小さなことで、もいんだと教えてくれ、自分に自信がもてる本です。続編「へなちよこ」はともちゃんの話です。ぜひ読み語ってみてください。